資料1－1

耐震検討ワーキンググループにおける検討の進め方（案）

発電用原子炉指針の試験研究炉への適用方針

項目	適用方針	検討方法
【発電用原子炉指針4】 耐震設計上の重要度分類	内包するエネルギ及び周辺公衆へ及ぼすリスクの大きさの違い等から、試験研究炉としての重要度分類を行う （理由） 試験研究炉は、炉型、熱出力、運転形態等が多様であり、また、内包するエネルギ及び周辺公衆へ及ぼすリスクの大きさが、発電用原子炉より小さいと考えられるため	発電用原子炉と試験研究炉における安全上の機能別重要度分類を比較する 環境への影響の大きさを、放射線被ばくの観点から検討する
【発電用原子炉指針5】 基準地震動の策定	試験研究炉においても、そのまま適用する （理由） 同一地点における想定すべき地震動は、発電用原子炉と試験研究用原子炉で相違はないと考えられるため	Ｓｄ/Ｓｓの下限値について発電用原子炉と揃える必要があるか検討する なお、具体的な地震動の策定は本ワーキンググループでの検討対象外とする
【発電用原子炉指針8】 地震随伴事象に対する考慮	試験研究炉においても、そのまま適用する （理由） 同一地点における地震随伴事象は、発電用原子炉と試験研究用原子炉で相違はないと考えられるため	発電用原子炉指針をそのまま適用することでよいか検討する
【その他技術的検討が必要な事項】 敷地周辺の地質構造等の把握	実地調査の他に、既存文献調査によることも可能とする （理由） 既存文献に信頼性の高いものがあるため	地質構造等の把握を、既存文献調査から行うことの妥当性を検討する